



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>			
建物名称	環境保護研究所	BEE	1.5 BEEランク
			A ★★★★★

<b>2. 重点項目への取組み度</b>			
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.3	/5	よい
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.4	/5	ふつう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4	/5	ふつう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.6	/5	ふつう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上
			ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

<b>3. 重点項目についての環境配慮概要</b>		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点	4.3	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ブラインドや庇、採用するなど、光・視環境に配慮した。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 街路灯を設置するなど暗がりが出ないように配慮し、犯罪の抑止力になるよう配慮した。 また、敷地の一部にポケットパークを設け、周辺市民の憩いの場を創出した。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 屋根や壁の断熱材を一般的な厚みより増し、ガラスについてもLow-eガラスを採用するなど断熱性能を高め、熱負荷を抑制すると共に、高効率型の空調機を採用し空調効率を高めている。 また、免振ピットの空気を室内に取り込み夏はクールチューブ、冬はウォームチューブとし空調効率が高くなるよう配慮した。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) 自動水栓や節水型の衛生器具を用い、水資源を保護した。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 研究所という建物用途上、排気を住宅地に向けないように配慮した。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			
	<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点	3.4
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 免震装置の採用</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
		<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点
	<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 天井高さを2.7m以上確保し利用者に圧迫感を与えないよう配慮した。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 住宅地という周辺環境に合わせ建物高さを低く抑え、外壁にタイルを採用するなど、周辺環境との調和を図った。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ⑳ 地域性への配慮、快適性の向上</p>		
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点	3.6	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) 隣地から研究所が直接望めないよう干渉材として隣地境界には生垣を計画した。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉔持続可能な森林から産出された木材/㉕温熱環境悪化の改善) フローリングに静岡産産材の利用を図った。</p>	<p>Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ㉒ まちなみ・景観への配慮</p> <p>3 3.2 ㉓ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ㉔ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ㉕ 温熱環境悪化の改善</p>			

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築) 2021年SDGs対応版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v.1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	環境保健研究所	階数	地上2F
建設地	静岡県静岡市駿河区曲金二丁目29	構造	S造
用途地域	準工業地域、22条区域、最高限3種	平均居住人員	19人
地域区分	7地域	年間使用時間	1,944時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年12月 予定	評価の実施日	2022年8月30日
敷地面積	3,053 m <sup>2</sup>	作成者	沢田 高志
建築面積	1,131 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,211 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★★☆☆☆☆

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

\* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

Qのスコア = 3.0

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.9

#### LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.6

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<p><b>総合</b></p> <p>これはCASBEE静岡(2021SDGs年版)による評価結果です。建物を利用する職員に心身ともに気持ちよく業務を行えるよう配慮した。LED照明や庇やブラインドによる自然採光の調整を行い、視環境に配慮した。また、外部負荷を極力減らすことで室内の空調負荷が一般になるよう配慮し室内環境を整えている。また、周辺環境が住宅街より近隣と調和を図り、敷地内が暗くならないよう街路灯を設けるなど、犯罪の抑止力に配慮している。</p>		0
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>ブラインドや庇、採用するなど、光・視環境に配慮している。また、全館禁煙とするなど空気環境について十分配慮している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>階段の踊り場を広げ、天井高が高い中2階とすることで空間に広がりを持たせた。また、中2階は大面積の木サッシとすることで開放的かつ温かみを感じられる空間とした。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>街路灯を設置するなど暗がりが出ないよう配慮し、犯罪の抑止力になるよう配慮している。また、敷地の一部にポケットパークを設け、周辺市民の憩いの場を創出した。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>屋根や壁の断熱材を一般的な厚みより増し、ガラスについてもLow-eガラスを採用するなど断熱性能を高め、熱負荷を抑制すると共に、高効率型の空調機を採用し空調効率を高めている。また、免振ビットの空気を室内に取込み夏はクールチェューブ、冬はウォームチェューブとし空調効率が上がるよう配慮している。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>自動水栓や節水型の衛生器具を用い、水資源を保護した。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>住宅地という周辺環境に合わせ建物高さを低く抑え、外壁にタイルを採用するなど、周辺環境との調和を図った。本施設は研究所の用途も持っている為、なるべく排気は住宅地に向けたよう配慮した。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される